

2019年9月27日

栃木県知事 福田 富一 様

栃木県議会 民主市民クラブ

代表 山田 みやこ

立憲民主党栃木県連合

代表 福田 昭夫

国民民主党栃木県総支部連合会

代表 斉藤 孝明

豚コレラ対策の強化を求める要望書

昨年9月に岐阜県において26年ぶりに発生が確認された豚コレラについては、愛知県・三重県・福井県で発生が確認され、今月には長野県・埼玉県でも発生が確認されるなど、感染拡大の一途をたどっている。近隣県で発生が確認されたことから、本県での発生リスクも日増しに高まっているものと捉え、早急な対策を緊急的に講じなければならない。

豚の産出額は約270億円で全国8位の本県においては、飼育されている豚の頭数も全国7位の約40.6万頭と近隣県と肩を並べており、万が一にも本県において豚コレラの発生が確認されれば、養豚業に与える影響は計り知れず、引いては県内外の豚肉需給にも多大な影響を及ぼす懸念がある。

今回発生した豚コレラは、野生イノシシの生息地域の拡大や生息数の増大なども背景に、これまで経験したことのない感染拡大の様相を呈しており、早急な対策が求められている。

については、栃木県として豚コレラに対する施策の展開を早急に実施することを求め、以下について要望する。

記

1. 豚コレラウィルスの侵入防止対策を早急に実施できるよう、防護柵の設置に係る十分な費用助成及び手続きの簡素化を図ること。なお、一刻も早い実施を促すためにも、防護柵の設置に必要な資材と施工業者の確保についても、積極的な支援に努めること。
2. 防疫の観点から、消石灰など必要な薬剤を確保し、豚舎等における徹底的な消毒措置等が円滑に実施されるよう積極的な支援に努めること。併せて、流通ルート上の主要箇所における消毒ポイントの効果的な設置を図ること。
3. 主な感染媒体と類推される野生イノシシの積極的な捕獲と駆除を推進し、捕獲イノシシの定期的な検体検査の実施と、県内における野生イノシシの感染状況の早期把握に努めること。
4. 野生イノシシが主な感染媒体と類推されることから、経口ワクチンの散布地域拡大等も含め、国の感染防止対策の早急な実施について、引き続き粘り強く要望を行うこと。
5. 万が一に本県で発生した場合に備え、患畜の殺処分・埋却等の体制について、獣医師会や畜産協会・養豚協会等を含む関係諸団体と連携した事前の準備協議を徹底すること。
6. 飼育豚へのワクチン投与については、獣医師会や畜産協会・養豚協会等の関係諸団体と十分に意見聴取・協議を行った上で実施についての早急な検討を行い、県内全ての養豚業者に対する事前説明や協力要請を徹底すること。
7. 飼育豚へのワクチン投与が実施された場合、風評被害等による県内産食肉の価格下落等を予防するため、食肉の安全性等を的確に宣伝する等、風評被害の払拭に係る十分な対策を実施すること。
8. 海外からのアフリカ豚コレラウィルスの侵入も大いに危惧されていることから、これを防止するため、国に対し、水際検疫の強化・徹底についても引き続き強く求めること。

以 上